

## 平成 21 年度第 1 回 経済学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時：平成 21 年 6 月 20 日(土) 午後 2 時から午後 4 時まで

II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者：林委員長、中嶋、望月、山田、碓井、児島委員  
井端事務局長、森下、恩田

### IV. 検討事項

前回の議事録確認を行い、前回委員会で示された検討事項の宿題に対し、各委員の意見を披露し、意見交換を行った。

#### 検討事項 1. 共通能力も含めた学士力の提案

昨年度、当委員会で実施した企業側からの大学教育へ要請・要望のインタビュー結果を踏まえた視点が重要であるという意見が出された。また、「社会人基礎力」をおさえておくべきとする意見も紹介された。その中で、チームで働く力には協調性が重要であり、コアカリの柱を策定する際に議論した徳育に相当するという意見が加えられた。

その他、「学んだ知識を社会や組織で使えるようにするには、現在の経済学教育で実施できるかどうか重要となる。」「座学だけでは力がつかないので、インターンシップや体験学習などが必要である。」「少人数教育で、学生同士の議論をフィードバックしながら身に付ける育成方法も必要であろう。」といった種々の意見が交わされた。

#### 検討事項 2. コアカリのイメージと判定能力、測定方法の検討提案

まず、「平成 18 年に当委員会でまとめた経済学の教育目標にコアカ리를当てはめてゆく作業が良い。」「経済学のコアカリとしてふさわしい代表的科目を選択し、一般常識・基礎・応用・分析・研究のレベルに内容を分類することが望ましい。」とする意見が示された。

また、コアカリの具現化や能力測定の実施はきわめて難しい作業であるが、実際に大学で取り組んでいる事例が紹介された。経済学部で実施されているアチーブメントテスト、経済学教育で必要となる内容を設問および解説にまとめた冊子が紹介された。その中で、「到達度テストは、使い方によっては現場での異論が噴出することも多い。また、知識の確認しかできないという限定的な測定方法である。しかし、学士力の育成に向けた取り組みとして必要である。」ことが確認された。さらに、学生の能力判定では GPA 評価の信憑性に関する話題に及んだ。

最後に、ひとつの具体的な提案が示された。経済学部のコアカリのイメージに触れ、当

委員会で検討した経済学部の学士力の 6 項目との関連性を整理した上で、測定方法はいかにあるべきかが示された。妥当性・信頼性・客観性・効率性・納得性に注意して、評価のマトリックスを作成する。択一的な試験以外に記述試験・レポート・プレゼン・作品などの能力を組み合わせる。また、教員による評価に加えて、学生相互の評価や自己評価を盛り込み、学生ポートフォリオをイメージした評価表を作成する。

ここで提案された測定方法を元に、今後、具体的な測定方法を 3 回ぐらいでまとめることにした。

### 検討事項 3. 学士力の達成に向けた分野別情報教育について

学士力がまとまり次第、着手する。平成 22 年度となる見込みである。

次回の委員会は、8 月 1 日（土）12 時～14 時とした。

会議を円滑に進めるために、7 月 20 日を目処に原案をまとめてもらい、各委員が事前にチェックをして、意見を持ってくることとした。